

ご関係者各位

nite 独立行政法人製品評価技術基盤機構による

「新型コロナウイルス検証試験の中間結果」に関して

首題の件、nite 独立行政法人製品評価技術基盤機構が5月28日付けで発表された「新型コロナウイルスを用いた代替消毒候補物資の有効性評価にかかる検証試験の中間結果について」（資料添付）が発表され、混乱を招いているようですので、以下、解説申し上げます。

まず、報告内容を精査しない報道がなされている点は、危惧されます。

添付報告書のP24に結果の要約がありますので、ご参照ください。

結論を申し上げますと、

●国立感染症研究所による試験結果（次亜塩素酸水；試験水 ウイルス液 19 : 1）では、「微酸性電解水（実測値：pH5.0、ACC 49ppm）では、測定したすべての反応時間において99.9%以上の感染価減少が認められた。1分及び5分においては99.99%以上の感染価減少であった。」という結論が得られています。

これに対して、

「一方、ACC 低値群の3サンプル（実測値：pH2.4、ACC 19ppm、pH2.9、ACC 26ppm、pH4.2、ACC 24ppm）においては、ほぼすべての反応時間において感染価減少率は99.9%未満であった。

・それ以外の3サンプル（実測値：pH2.5、ACC 40ppm、pH4.3、ACC 43ppm、pH4.9、ACC 39ppm）については、現時点で感染価減少にかかる一定の傾向を捉えることは困難であった。」

とあります。

要するに、濃度が43ppm以下で、pHが低すぎると、効果が得られないという結果です。

次に、

●北里大学による試験結果（次亜塩素酸水；試験水 ウイルス液 9 : 1）では、

「北里大の検証試験において、微酸性電解水4サンプル（pH5.0及び6.0、ACC各50ppm）にウイルス不活化効果は認められなかった（反応液におけるウイルス液とサンプル液の比率1 : 9）」

とあります。

以上をまとめると、pHが低すぎない弱酸性（微酸性：pH5-6.5）で、49ppm以上の次亜塩素酸水をしっかりと作用させないと効果が期待できないということになります。

つまり、新型コロナウイルスに関して言えば、有効塩素濃度が43ppm以下の低いもの、pHが4.3以下のものは、効果が期待できないということです。

弊社の協力企業による「ヒト由来のノロウイルスに対する不活化試験」でも、細胞レベルまで破壊するのに要する時間は

40ppmで15分以内

80ppmで5分以内

という結果を得ており、有効塩素濃度（ACC）の重要性は、明らかだと考えられます。

●弊社の「ジアのチカラ」等の弱酸性（微酸性）次亜塩素酸水は、

有効塩素濃度 : ジアのチカラ ACC > 80ppm

pH : 5.0 < ジアのチカラ pH < 6.0

に調整されており、

今回の中間報告よりも良い結果が得られるのは間違い無いと考えられますので、この結果は、むしろ、弊社製品の優位性を証明してくれていると判断しています。

しかも、他社の電解タイプや、無機酸のみを使用した次亜塩素酸水は、有効塩素濃度 ACC の失活速度が速く、今回の結果から、効果の保持が、より困難であると考えられます。

今後の活動に当たっては、むしろ、この中間報告をもとに、正しい説明を実行されますようお願い申し上げます。

令和2年5月30日

株式会社ピュアソン

専務取締役 品質管理部長

石田智洋

